

第2期
上島町 総合戦略

令和4年10月

目 次

第1章 総 論

- 第1節 「第2期総合戦略」策定の前提1
 - 1. 策定の背景
 - 2. 総合戦略の位置づけ
 - 3. 計画対象期間
 - 4. 推進方策
- 第2節 町の未来像実現に向けた取り組み5
 - 1. 町の未来像
 - 2. 総合戦略の中で目指す方向性
 - 3. 上島流の豊かさ・幸福のある暮らしとは何か
 - 4. 未来につないでいきたいこと
 - 5. 基本目標
 - 6. 施策の体系

第2章 施策の方向

- 基本目標1 人と海・山・里が共存するまちづくり16
 - 1. 数値目標
 - 2. 基本的方向
 - 3. 具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）
- 基本目標2 歴史・文化を継承し、活かすまちづくり18
 - 1. 数値目標
 - 2. 基本的方向
 - 3. 具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）
- 基本目標3 誰もが今ある豊かで幸福な暮らしを継続していけるまちづくり ...20
 - 1. 数値目標
 - 2. 基本的方向
 - 3. 具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）
- 基本目標4 誰もが希望をもって働き、活気あふれるまちづくり24
 - 1. 数値目標
 - 2. 基本的方向
 - 3. 具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）
- 基本目標5 人が活発に交流し、ふれあいのあるまちづくり26
 - 1. 数値目標
 - 2. 基本的方向
 - 3. 具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）

参 考 29

- 1 上島町総合戦略等推進会議委員名簿
- 2 コアチーム名簿
- 3 コアチームの活動
- 4 ワーキンググループ名簿
- 5 ワーキンググループの活動

第1章 総 論

第1節 「第2期総合戦略」策定の前提

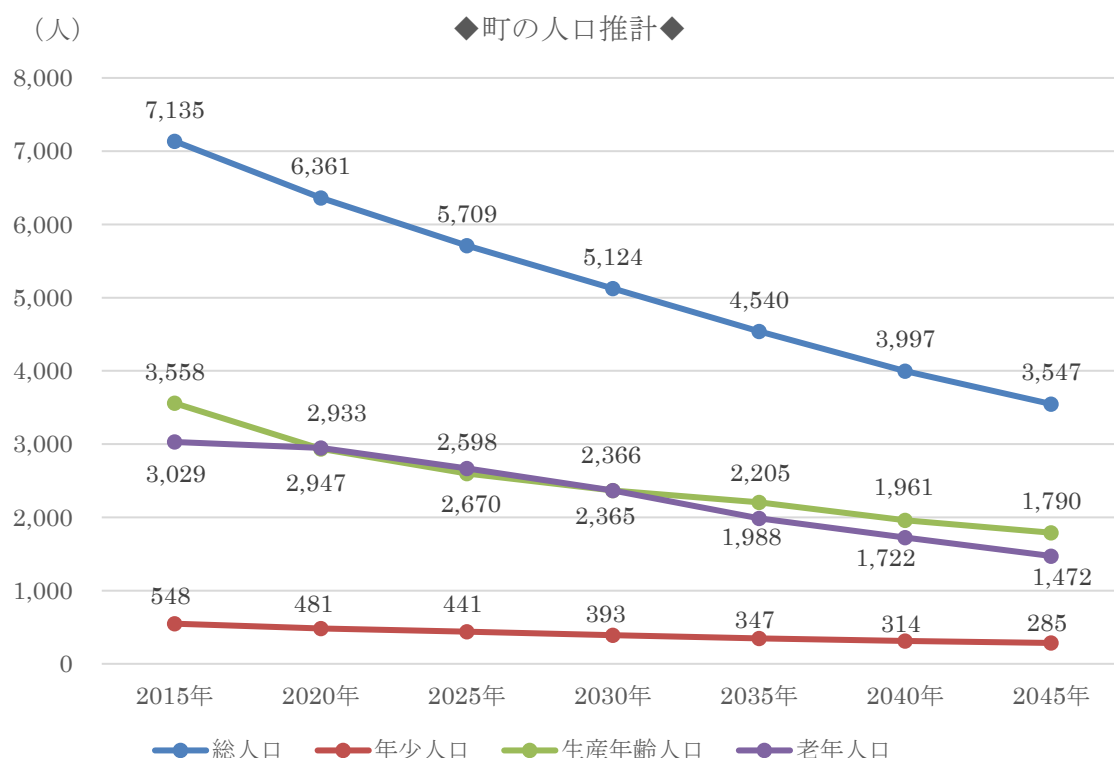
1. 策定の背景

上島町は、愛媛県と広島県の県境で瀬戸内海のほぼ中央に位置し、温暖な気候と風光明媚な 25 の島々（有人島 7・無人島 18）で構成されています。柑橘類栽培を主力とする農業と豊かな漁場に支えられた水産業、そして造船業が基幹産業となっています。

平成 28 年 3 月に「上島町第 2 次総合計画」を策定し、町の未来像を「世界に誇れる品格あるふるさと～上島流の豊かさ・幸福のある暮らし～」と定めて以降、上島町だからこそ実現可能な誇りを持てる「ふるさと」づくりに取り組んでいます。

本町の人口は、昭和 25 年（1950 年）の 15,552 人（旧 4 町村合算）をピークに減少に転じ、令和 3 年（2021 年）には 6,556 人となり、ピーク時の半分以上となっています。

また、「上島町人口ビジョン」（令和 2 年 3 月策定。以下「人口ビジョン」という。）でも掲載しましたが、国立社会保障・人口問題研究所が示した推計結果によると、今後も人口減少は続き、何も対策を講じなければ 2045 年には 3,547 人となることが予測されています。人口が減少していくと、本町の産業振興、生活・教育環境、社会保障、地域活動や伝統行事、地域活性化など様々な影響を及ぼす（町の維持・継続ができなくなる）ことが懸念されています。

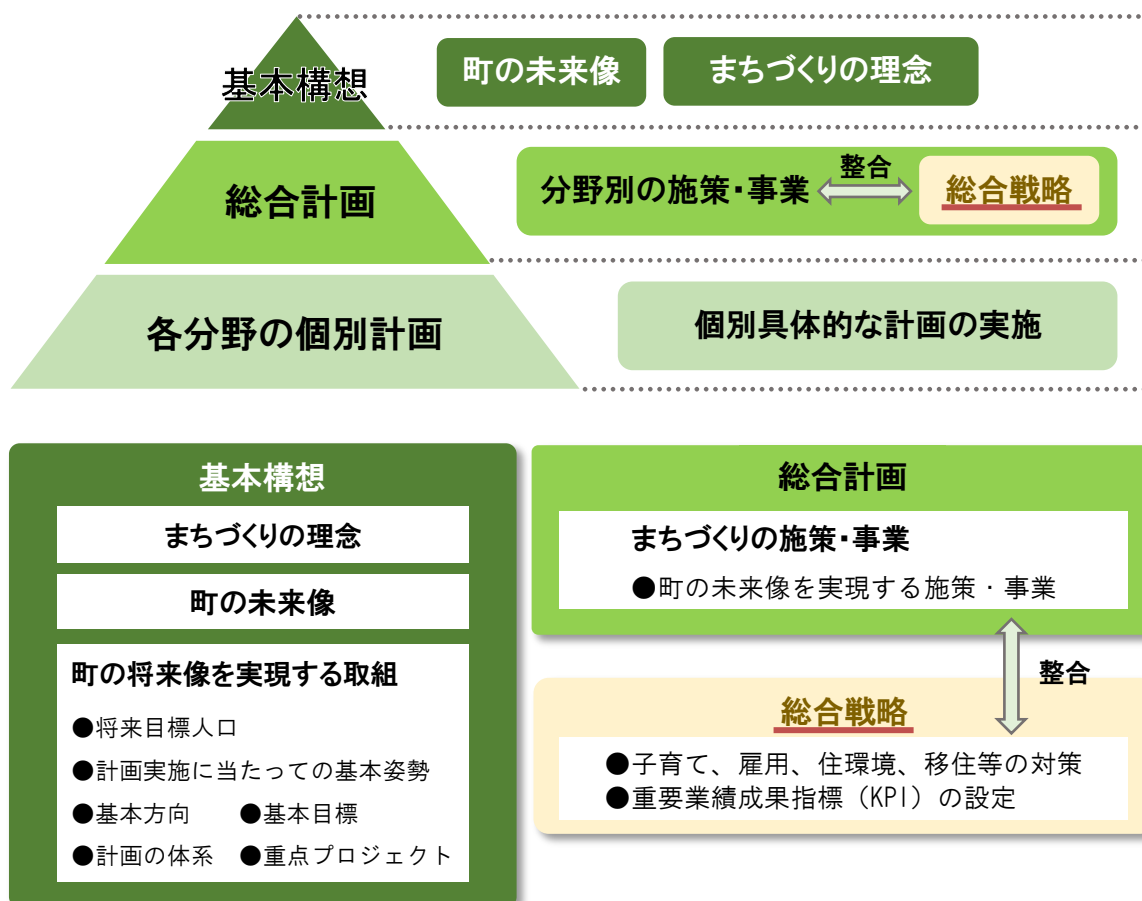


資料：社人研「日本の地域別将来推計人口（平成 30（2018）年推計）」

2. 総合戦略の位置づけ

本戦略は、国が定めた「まち・ひと・しごと創生総合戦略」（以下「国の総合戦略」という。）に基づき、地方において実施していくための「地方版総合戦略」に該当します。

また、策定にあたっては、本町の最上位計画に位置付けられている「上島町総合計画」との整合を図り、地方創生と人口減少対策として特に有効な具体施策を検討しました。



3. 計画対象期間

第2期総合戦略の期間は、総合計画の計画期間に合わせ、令和4年10月から令和8年3月までの3年6か月とします。

◆計画の期間◆

和暦(年度)	平成 28	平成 29	平成 30	令和元	令和 2	令和 3	令和 4	令和 5	令和 6	令和 7
西暦(年度)	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
総合計画	基本構想(10年間)									
	前期基本計画					後期基本計画				
総合戦略	第1期 (H27～)						第2期			

4. 推進方策

(1) 政策5原則を踏まえた取組

国の総合戦略に示される「まち・ひと・しごと創生」政策5原則（自立性・将来性・地域性・総合性・結果重視）の趣旨を踏まえ、事業の妥当性を個々に判断しながら取り組みます。

「まち・ひと・しごと創生」政策5原則（国の戦略より抜粋）

○人口減少克服・地方創生を実現するため、5つの政策原則に基づき施策を展開する。

①自立性

地方公共団体・民間事業者・個人等の自立につながるような施策に取り組む。

②将来性

施策が一過性の対症療法にとどまらず、将来に向かって、構造的な問題に積極的に取り組む。

③地域性

地域の強みや魅力を活かし、その地域の実態に合った施策を、自主的かつ主体的に取り組む。

④総合性

施策の効果をより高めるため、多様な主体との連携や、他の地域、施策との連携を進めるなど、総合的な施策に取り組む。その上で、限られた財源や時間の中で最大限の成果を上げるため、直接的に支援する施策に取り組む。

⑤結果重視

施策の結果を重視するため、明確なPDCAメカニズムの下に、客観的データに基づく現状分析や将来予測等により短期・中期の具体的な数値目標を設定した上で施策に取り組む。その後、政策効果を客観的な指標により評価し、必要な改善を行う。

(2) PDCA サイクルによる着実な推進

行政活動そのものの結果（アウトプット）ではなく、その結果として住民にもたらされた便益（アウトカム）に関する数値を設定します。目標ごとに数値目標を設定し、目標を達成するための施策ごとにKPI（重要業績評価指標）を設定します。

そして、各施策、事業の評価等を行うとともに、地域を担う団体・組織・関連機関等にも広く意見を聞きながら、効果の検証を行います。また、進捗管理等を毎年度行い、本町において以前から実施しているPDCAサイクルをこの総合戦略にあてはめ、検証内容に応じて見直し、計画内容の追加・変更について検討します。

町を次世代に繋いでいくための戦略とするため、次世代を担う子育て世代を中心としたワーキンググループでの検討を経て作成し、また、議会・行政・住民組織・経済団体・教育機関・金融機関・報道機関等からの代表及び学識経験者から構成する「上島町総合戦略等推進会議」での協議を経て、計画期間において素案及び施策の推進並びに評価に関して調査・審議を報告し、意見・提案を受け、着実な推進に努めます。

※PDCAとは、事業活動における管理報告業務を効果的・効率的に行うための手法の一つ。Plan（計画）→Do（実行）→Check（評価）→Action（改善）の4つのステップからなり、これらを繰り返すことで、業務を継続的に改善する。

※KPIとは、Key Performance Indicators（キー・パフォーマンス・インディケーター）の略。重要業績評価指標のことで、施策や事業の目標達成の度合いを図るために設定する数値目標。

(3) 広域連携・県との連携強化

地方創生に取り組んでいくためには、町内での連携・協働にとどまらず、離島である本町にとっては、県をまたいだ広域的な連携を積極的に推進するとともに、愛媛県及び周辺自治体と継続的かつ密接に連携を図って、各種施策を推進します。

(4) デジタルトランスフォーメーション(DX)の推進

人口減少や少子高齢化に加え、コロナ禍によって社会環境が急速に変わって行く中、DX（Digital Transformation：デジタル変革）の推進を通じて、時間や空間の制約を克服しながら、地域課題の解決や新たな価値の創造を促し、住民本位の行政や持続的発展が可能な地域社会の実現を目指す取組みが活発になっています。

このような状況を踏まえ、本町では愛媛県とも連携しつつ、行政の効率化や町民生活の向上、地域経済の活性化など様々な分野において、DX の取組みを検討してまいります。

第2節 町の未来像実現に向けた取り組み

1. 町の未来像

＜上島町第2次総合計画＞

町の未来像・・・目指すべき町の姿

「世界に誇れる品格あるふるさと」

～上島流の豊かさ・幸福のある暮らし～

住民自らが、自分たちの住む地域に強く関心を持ち、自ら主体性を持って行動することが、この町の発展にとって不可欠であることは言うまでもありません。

しかし、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による社会情勢の変化にもみられるように、経済指標のみで暮らしの豊かさや満足度を語ることが難しくなっているこれからの社会を見据えると、町の発展の方向性として、上島流の豊かさや幸福とは何かを、一人ひとりが意識することも重要になっています。

また、生まれ育ったゆかりのある場所で、一人ひとりの存在が認められ、安心して過ごすことができる居場所として「ふるさと」が見直されています。中世には京都の東寺に塩を上納していたという交流の歴史があるなど、古文書に記されている由緒正しい歴史と伝統を引き継ぎ、今ある自然・文化・産業などの上島町の地域資源を最大限に活かした新しい文化をつくり、上島町だからこそ実現可能な誇りを持てる「ふるさと」づくりを目指していくことが、これからのまちづくりに求められています。

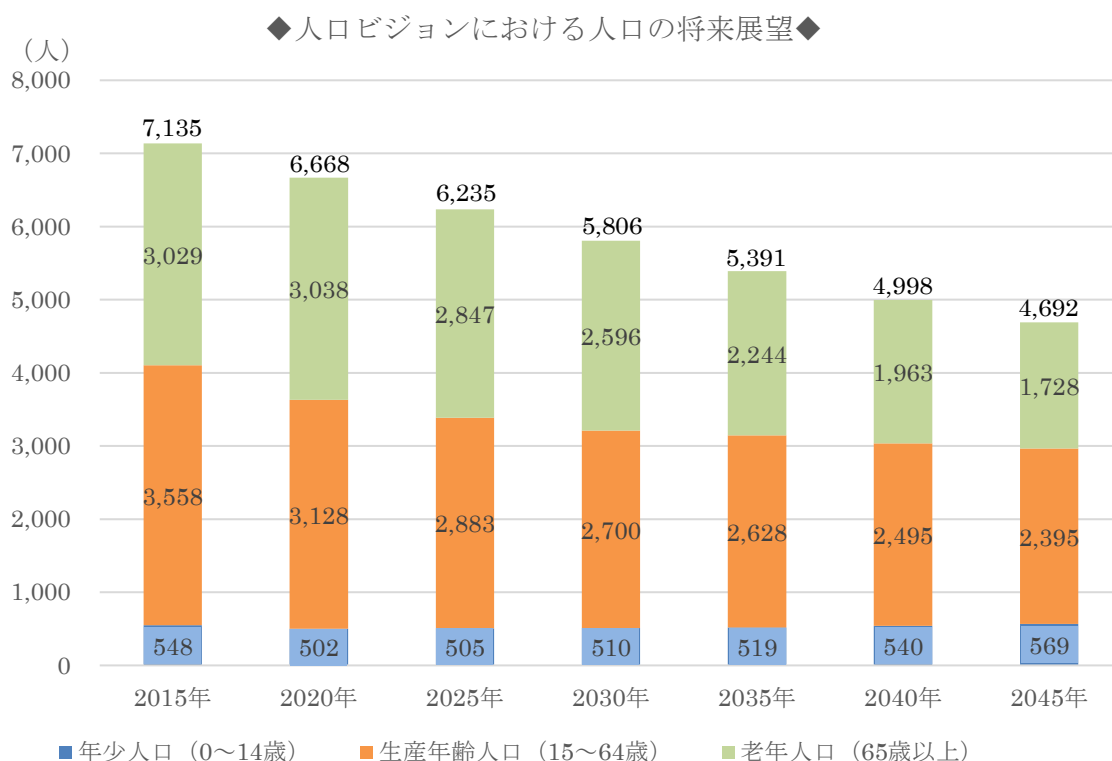
2. 総合戦略の中で目指す方向性

全国の自治体と移住者等の奪い合いをするのではなく、「上島流の豊かさや幸福のある暮らし」を突き詰め、上島町に住む人々が誇りを持てる「ふるさと」にしていこうとすることで、住民が『住み続けたい』、上島町で育った子どもたちが『帰ってきたい』、移住希望者が『住んでみたい』と思えることが、「本当の豊かで幸福な町」になると考えています。

そして、そのような「まちづくり」「ふるさとづくり」をしていくことで、人口ビジョンで設定した将来人口目標（2045年：4,692人）の達成につなげていくため、官民が協働した様々な施策を展開します。

◆人口の将来展望の設定◆

- 人口ビジョンの最終年である 2045年の人口を4,692人と展望します。
- そのため、子育て支援の充実や若者世代の定住促進、産業の活性化など様々な施策を展開することにより、2030年に5,800人を維持、2040年に5,000人を維持することを目標とします。



3. 上島流の豊かさ・幸福のある暮らしとは何か

町の未来像にある「～上島流の豊かさ・幸福のある暮らし～」が具体的に何を指すのかは、人それぞれの考えや価値観によるものであると思います。しかしながら、施策として取り組む場合に具体的に示されていなければ、「何を」「どう」推進しているのか見えづらくなることが考えられます。

そこで令和元年7月から令和2年3月まで、子育て世代を中心とした町民10名程度でコアチームを結成し、愛媛大学社会推進機構 教授の前田 眞先生をファシリテーターに迎え、コアチーム会議を計9回にわたり検証してきました。

コアチームメンバーが個々に「上島町に住んでいて幸せに感じること・豊かだと感じること」を意見として出し合い、その結果、「海と自然」「歴史・文化」「暮らし」「なりわい」「人と人との関係」の5つのテーマに分け、ワーキンググループで協議していくこととしました。

コアチーム会議による「上島流の豊かさ・幸福のある暮らし」

I. 海と自然

①すぐそばに海があること

瀬戸内海が私たちのすぐ近くにある。島の中では、私たちはいつも海を感じながら暮らしている。近くにいてから海との関係性も深くなる。海は私たちに、物質的だけでなく精神的にも豊かさをもたらしてくれる。

②海をよりどころにした産業があること

かつて島の人々は塩をつくり、魚をとり、船に乗って海を渡ってきた。現代では造船業や漁業が、海をよりどころにした産業として地域に根差している。造船業は静かな内海だからこそ発達してきたし、漁業も瀬戸内海の豊かさがあればこそだ。

③海が安らぎを与えてくれること

海は私たちに精神的な安らぎも与えてくれる。嫌なことがあったとき海を眺めに行くだけで静かな気持ちになれる。昼間青く美しい海は、月夜も別格だ。穏やかな波音も頭をリラックスさせてくれる。海は遊び場でもある。海に潜るといろいろな生き物に会えたり、暑い夏も浜辺で涼をとることができる。美しく豊かな海を維持し続けることが、私たちの幸せに直結するのではないか。

④四季を感じられること

季節の移り変わりをを感じられるところがいい。ウグイスの鳴き声を聞くと春が来て、5月の終わりには柑橘の花が一斉に咲く。キンモクセイの香りは祭りの時期だ。冬には早朝のワカメ取り。季節ごとにとれる野菜や柑橘が本当においしい。都会ではクリスマスのイルミネーションを見て季節を感じたけれど、島では自然が教えてくれる。

II. 歴史・文化

①誇れる歴史や文化があること

町内各地区に受け継がれるお祭り、郷土料理などは歴史が育んできたもの。島それぞれに違った個性があり、それが魅力になっている。お墓や先祖を敬い、お墓を大切にする心も素晴らしい。積善山の桜も、人々が育ててきた文化だ。私たちのアイデンティティは、昔から島に暮らした人々が培ってきた生活文化そのものなのだと思う。

Ⅲ. 暮らし

①居住環境がよいこと

島には人が暮らすよい環境がある。都市のように人工的な騒音がほとんどなく、とても静かだ。聞こえるのは波の音。人工光も少ないため、暗いところでゆっくり寝られるし、夜空を見上げると星がきれいに見える。また、人々が暮らしてきた景色も美しい。島と橋、海が織りなす景色、他の島の暮らしが見える景色が好きだ。

②時間・空間・余白があること

島の生活は、活動範囲がコンパクトに収まっている。通勤時間も短いし、買い物もおよそ町内で完結するため、移動のために使う時間が少なくて済む。家族と一緒に過ごせる時間が長いし、自分が趣味などに使える時間や自分のことを見つめる時間を多く取ることができる。時間だけでなく、情報やモノにあふれていない分、自分らしさを見つけることができやすいのではないかな。

都会のように建て込んでおらず空間的にも余裕があるため、屋外でも一人になれる場所がある。家は都会に比べて広く、家賃が安い。

③安心・安全・ストレスフリーであること

自然災害が少ないので安心。車が少なくこともあり交通事故もほとんどない。信号や交通渋滞がないのでストレスが溜まらない。心の余裕があるからか、お互いに譲り合いの心で運転している。

④子育てがしやすいこと

教育機関については保育所・小学校・中学校・高等学校・高等専門学校と、離島であるにも関わらず非常に充実しているのが魅力。公営塾（ゆめしま未来塾）も魅力をアップさせている。またサッカースクールや空手、ソフトボールなどのスポーツ少年団活動も充実している。このような環境の中で、子どもたちは生き生きと育つ。

⑤インフラ・交通が整っており便利なこと

離島のわりにはかなり便利なところだ。インターネットは光回線が全戸に巡らされ、上下水道も消防やケーブルテレビも充実している。ゴミの分別が少なくてよい。船便が多く、しまなみ海道を経由して福山や広島、松山といった都市へのアクセスも非常に良く、新幹線や空港を利用しやすい。

IV. なりわい

①自給自足ができること

海も畑もあるので、自分の食べるものをある程度は自分で調達できる。自然の中で生かされ、自然を相手にしたなりわいも充実している。

②地域性や環境を生かした仕事があること

瀬戸内海の島であるという地域性や特性を生かした造船業、農業、漁業があるおかげで、島に暮らすことができる。これらは先人から受け継いできたものであり、私たちの次世代にぜひ繋いでいきたいものである。

V. 人と人との関係

①周囲を思いやって暮らしていること

島の人たちは島四国の文化を代表に「お接待文化」を持っていると思う。困ったとき、いつでも頼りなさいと言ってくれる人、いつも気にかけてくれる人がいる心地よさ。近所の人たちはみな顔見知りなので、子どもも安心して育てられる。親が忙しいと、近所の人から子どもを見てくれることもある。

近すぎず離れすぎず、人と人との距離感が心地よい。野菜や魚をおすそ分けしてくれたり、逆に何かを返したり。道端では必ず挨拶し合う。みんな、周囲を思いやって暮らしている。祭りでは一体になって楽しむ。それがこの町の集団意識なのだろう。個人個人の合う・合わないは当然あるけれど、私たちはその集団意識がつくる小さなコミュニティに所属していることが、幸せだと感じている。

②世代間の交流があり、学びがあること

祭りなどの地域行事では、お年寄りから小さな子どもまでが同じ時間・同じ場所を共有する。そういう機会を通して、若い人はお年寄りから色々なことを学ぶ。お年寄りも逆に若い人から刺激をもらっているのかもしれない。気さくな人が多く、ものの考え方が柔軟でいい意味でゆるい。新しいチャレンジを応援してくれる土地柄だとも思う。

③友達や仲間がいること

同級生や同じ地区の同世代はかけがえのない友達であり、助け合う仲間である。そのつながりは強く、困難にあたっても自分一人ではないと感ずることができる。

ワーキンググループによる「上島流の豊かさ・幸福のある暮らし」

4. 未来につないでいきたいこと

5つのテーマについて、「なくさないため」「守っていくため」「よりよくしていくため」に何が必要か、何ができるかを検討するため、令和4年4月から7月まで、約40人の町民が集まり、テーマ毎の5つのワーキンググループを結成しました。各グループが4回程度にわたり意見を出し合い、テーマごとに、維持・継続していきたいことや改善したいこととして「未来につないでいきたいこと」及び、それらを達成できた時のゴールである「目指す未来の姿」をまとめました。

I. 海と自然

1. 自然環境

- ・瀬戸内の島らしい島多美を誇りにし、ゴミのない海や山の自然環境を取り戻すこと。
- ・海・里・山のつながりの大切さを学び、調和の取れた関係づくりを推進すること。

2. 資源

- ・海の生物多様性をよく認識し、それらを育む栄養豊かな海をつくること。
- ・山の資源を持続的に利用できる仕組みをつくり、森林環境を整えること。
- ・海に関わる仕事や高等教育機関があることを誇り、維持する心をもつこと。

3. 活動の場

- ・生活の場としてだけでなく、遊び場として、また精神的に安らげる場として海や山があることを当たり前思わず、より良いものにするために努力すること。

4. 人

- ・海や山を舞台にした新しいチャレンジを皆が応援する島であること。
- ・豊かな自然と、人間の暮らしやそれに必要かつ便利なインフラを良いバランスで関係させ続け、決して自然に負担をかけないこと。
- ・海や山の豊かな色彩や、柑橘などの四季の香りを楽しむ心の豊かさを持てること。

5. 教育

- ・大学や高専などの専門機関とも連携し、自然が身近にあることを十分に活かした自然教育やエコロジー教育が行われていること。
- ・自然と共に生きるための知恵の大切さを住民皆が見直し、日々の生活の中で常に学ぶ機会を持ち続けること。

6. 産業

- ・海や山の資源を活かした新しいビジネスの創出が積極的に行われ、皆がそれを後押しすること。
- ・漁業や農業、林業を生業にする人々が夢を持って仕事に取り組めること。
- ・上記の産業が時代に即した仕組みを取り入れ、儲かる産業構造となるよう学び努力すること。
- ・産業の取り組みがより良い自然環境を作り出すというループを目指すこと。

【目指す未来の姿】

町民にとって生活基盤であり、精神的な支柱となっている島の海や山をより良いものとして、次世代に繋いでいかなければならず、そのためには大人も子どももみな自分の行動を見直す必要がある。人間の営みと自然が良い形で関係し続ける円環を作り出すための知恵をつける努力をし、創造性を磨くことで、自然を搾取することなく隣り合って生き続けられること。

Ⅱ. 歴史・文化

1. 上島町の歴史・文化を積極的に学び・体験し、町民自らがそれらを次世代に継承できる人材であること。
2. 町民が歴史・文化に対して愛着と誇りを持っていること。
3. 町民が歴史・文化の基盤となる地域コミュニティや自然環境・景観、生活環境を守り、大切にしていること。
4. 地域の人々が、日々の生活の中で、歴史・文化と共存する幸せを分かち合えること。
5. 上島町の歴史・文化が、情報発信や他地域との交流・連携を通して、さらに認知され、ますます盛り上がること。

【目指す未来の姿】

豊かな歴史・文化を学び、継承することを通して、ふるさとに対する愛着と誇りを持つ心を育み、豊かな人材が集うことによって、歴史・文化を活かした多様な魅力に溢れる島であること。

Ⅲ. 暮らし

1. 誰とでも挨拶を交わし分け隔てなく温かく接するなど、島ならではの心地よい関係性があること。
2. ちょうどよい不便さを肯定し暮らしの豊かさを認めるようなムードがあること。
3. 穏やかな海をはじめとした豊かな自然が身近にあり、四季を感じられる環境であること。
4. コンパクトな地域性により、コミュニティ内での無理のない交流ができ、のんびりした雰囲気の流れていること。

5. 地域行事や地域活動、地域文化を大切にし、それらを継承するために地域コミュニティの維持を目指していること。
6. 地域医療の仕組みが確立され、一生涯、上島町で過ごせること。
7. 住宅供給が充実しており、空き家・空き地の利活用も盛んであり、整ったインターネット環境や上下水道等インフラ設備、交通の便が良いといった暮らしやすい生活環境があること。
8. 保育所/小学校/中学校/高等学校/高等専門学校と学びの環境が充実しており、少人数制の手厚い支援・指導があり、地域で子どもたちを見守る環境があること。
9. 官民学が一体となって町内の教育環境の魅力化に取り組み、高等学校や高等専門学校においては県外からの学生も受け入れ、多様な若年層が暮らしていること。
10. 未開拓の市場が多くあり、ビジネスにおける潜在性が非常に高く、新事業や創業の機会が豊富にあること。

【目指す未来の姿】

一生涯を過ごす町として、島の中で完結する程よい規模と無理のないコミュニティがあり、日々の暮らしで生活環境や自然環境など、今ある・感じる良さを維持し、満足感と向上心を持ちつつ、官民学が一体となってまちづくりをしていること。

IV. なりわい

1. 人生のどのタイミングでも新しいチャレンジができること。
2. 仕事の選択肢が多くあること。
3. なりわい同士の交流があることで、豊かさの気づきがあり、相乗効果が生まれること。
4. チャレンジする人を応援する風土があること。
5. 自分の好きなことをなりわいにし、生活の糧を得ることができること。
6. なりわいが島の景観や自然を守り、景観や自然がなりわいを育てること（農林漁業、空き家）。
7. 今あるなりわいを次の世代につないでいけること。
8. 自由な働き方ができ、心と時間の豊かさを感じられること。
9. 島で育った子どもたちの“帰ってきたい”を応援できること。

【目指す未来の姿】

なりわいが町に様々な相乗効果をもたらし、心と時間の豊かさを感じられること。

V. 人と人との関係

1. 祭りなどの地域行事を通じた世代間交流があること。
2. 子どもたちを温かく見守る目がたくさんあり、子育てしやすい環境であること。
3. 野菜や魚をおすそ分けしてくれたり、逆に何かを返したりをおすそ分け文化があり、気配りのある温かい人付き合い、近所付き合いがあること。
4. 子どもたちがそれぞれの島の大人と気軽に交流でき、様々な学びを得ることができる環境があること。
5. 人の交わる機会や交流するコミュニティの充実により、島を越えた支え合いの仕組みがあること。
6. 働く場所や住む場所等の環境の充実により、移住・定住しやすい町であること。
7. 多様な価値観や考え方を互いに認め合うことで、自分らしく生き生きと暮らせる、誰もが活躍できる地域社会であること。
8. 上島町外に居住しながら上島町に関わり続ける「人」の拡大により、新しい人の流れや人のつながりがあること。

【目指す未来の姿】

島と島との交流を深めることにより地域の一体化が生まれ、また、上島町に関わる「人」の拡大により、多様性を認め合い、人と人とのつながりを大切にする町であること

5. 基本目標

ワーキンググループの提言を基に、国及び県の政策分野と「第2次上島町総合計画」に掲げる主要政策を勘案のうえ、5つのテーマごとの基本目標を設定し、数値目標と基本的方向を定め、具体的な事業と取組みにより、本町の目指す方向性（目標）の実現に向けた施策を展開していきます。

<5つの基本目標>

- ①海と自然→人と海・山・里が共存するまちづくり
- ②歴史・文化→歴史・文化を継承し、活かすまちづくり
- ③暮らし→誰もが今ある豊かで幸福な暮らしを継続していけるまちづくり
- ④なりわい→誰もが希望をもって働き、活気あふれるまちづくり
- ⑤人と人との関係→人が活発に交流し、ふれあいのあるまちづくり

6. 施策の体系

《まちづくりの理念》

《政策領域別基本目標と施策》

「住民自らによる、産業・歴史・文化・自然を活かしたまちづくり」
島人による上島ならではのまちづくり

基本目標 1: 人と海・山・里が共存するまちづくり

【施策】

- (1) 生産基盤整備の推進
- (2) 新規就業者への支援
- (3) 鳥獣被害防止対策の推進

基本目標 2: 歴史・文化を継承し、活かすまちづくり

【施策】

- (1) 歴史・文化を次世代に継承できる人材の育成
- (2) 歴史・文化を通じた交流や史跡回遊等の文化財活用による地域活性化

基本目標3: 誰もが今ある豊かで幸福な暮らしを継続していけるまちづくり

【施策】

- (1) 健康づくりの推進
- (2) 暮らしやすい生活環境の整備
- (3) 本町への移住・定住の推進
- (4) 県立弓削高等学校存続への活動の推進
- (5) 地域公共交通の利便性向上
- (6) 多様な地域活動の促進
- (7) 地域密着型のケーブルテレビの運営

基本目標4: 誰もが希望をもって働き、活気あふれるまちづくり

【施策】

- (1) 新規創業の促進
- (2) 地元雇用の促進
- (3) 事業の継続支援
- (4) 造船業の振興

基本目標5: 人が活発に交流し、ふれあいのあるまちづくり

【施策】

- (1) 滞在型観光の推進
- (2) 安心・安全にサイクリングできる道路や施設の整備
- (3) 上島町と町外とのつながりの構築
- (4) 共に支え合う地域づくり
- (5) 地域で子どもを産み育てられる環境づくり
- (6) 子ども・子育て世代の交流

第2章 施策の方向

基本目標1 人と海・山・里が共存するまちづくり

1. 数値目標

● 農林水産業の新規就業者数

基準値(平成30年度～令和3年度累計)4人

→目標値(令和4年度～令和7年度累計)6人

2. 基本的方向

- 海や自然の現状を見直したうえで、豊かな自然を取り戻し、自然資源の持続可能かつ好循環が続くような取り組みを行い、農林水産業の更なる成長発展を図ります。
- 子どもも大人も皆が本町の基幹産業である農林水産業を体験し学ぶことができる機会を積極的に創り出し、自然環境を活用した新たな取組を推進することで、地域の活性化を図ります。

3. 具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）

（1）生産基盤整備の推進

農林水産物の販路開拓、商品開発、需要拡大や、海や山を資源とする町民の新たなチャレンジに対応するため、生産基盤となる農地・森林・漁場の整備を推進し、全体生産量の増加を図ることで、所得向上につなげます。

農業に関しては、地域農業を支える担い手への農地利用の集積・集約化を図るための農地中間管理機構の活用を推進するとともに、耕作放棄地の解消に努めます。また、愛あるブランド「青いレモン」をはじめ、柑橘のハウス施設整備を推進し、更なるブランド力及び品質の向上、高収量、高収益を目指します。

水産業に関しては、地球温暖化がもたらす海水温度の上昇による漁期短縮や自然災害の激甚化などに対応するため、漁場環境の改善に取り組むとともに、環境変化に適応した生産力の強化を図ります。

（2）新規就業者への支援

本町の魅力を町外へ向けて積極的に発信するとともに、研修制度の更なる充実を図り、UIJターンの増加を促進することで、意欲と能力のある新たな地域の担い手の確保を図ります。また、新規就業者が定着して就業できるよう関係機関と連携し、定住サポートの整備や経営の支援等に努めます。

(3) 鳥獣被害防止対策の推進

野生鳥獣による農作物被害や生活被害を防止するため、地域一体となった主体的な鳥獣被害防止対策を講じ、営農意欲の減退や離農、耕作放棄地の増加に歯止めをかけます。

また、捕獲隊の負担軽減のため、ICT 機器の導入など、効果的な捕獲方法を取り入れます。併せて、捕獲隊員の体制強化など、総合的な被害防止対策に取り組みつつ、ジビエ利用拡大に向けた取組を推進し、地域活性化及び新たな産業の確立を目指します。

KPI (重要業績評価指標)	農地利用集積面積	
	令和3年度(基準)	令和7年度(目標)
	36ha	40ha
	認定農業者及び認定新規就農者数	
	令和3年度(基準)	令和7年度(目標)
	32人	32人
	鳥獣害(イノシシ)捕獲頭数	
	平成30年度～令和3年度累計(基準)	令和4年度～令和7年度累計(目標)
	1,044頭	1,200頭
	漁場整備面積	
	平成30年度～令和3年度累計(基準)	令和4年度～令和7年度累計(目標)
	149ha	300ha
	研修制度利用者数	
	令和3年度(基準)	令和7年度(目標)
	33人	40人
主な事業・取組	▶ 遊休農地再生利用対策事業 ▶ レモン産地育成支援事業 ▶ 未来型果樹産地強化支援事業 ▶ 農村環境保全向上活動支援事業 ▶ 農業次世代人材投資事業 ▶ 新規就農者育成総合対策事業 ▶ 鳥獣被害緊急捕獲活動支援事業 ▶ 捕獲隊支援事業 ▶ 猟銃取得促進事業 ▶ 農業生産被害対策事業 ▶ 水産環境整備事業(漁礁・増殖礁) ▶ 海底耕うん ▶ ワーキングホリデー ▶ 上島町お試し就業研修事業 ▶ 上島町農林漁業インターン事業	

基本目標2 歴史・文化を継承し、活かすまちづくり

1. 数値目標

●歴史・文化を継承する活動(※)の参加者数

基準値(令和3年度)100人 → 目標値(令和7年度)300人

(※)地域住民や学校を対象とした講座や地域住民による文化観光ガイド・町民ギャラリーの企画など

2. 基本的方向

- 上島町の豊かな歴史・文化を活かした活動・学習ができる博物館施設等の拠点を整備し、町民の郷土愛や文化財愛護の精神を育むとともに、交流機会の創出や地域回遊による学習や活動を通じて、次世代へと歴史・文化を継承できる人材を育成し、文化観光の振興を図ります。

3. 具体的な施策と重要業績評価指標(KPI)

(1) 歴史・文化を次世代に継承できる人材の育成

上島町には、「塩の荘園」として全国的に知られる国指定史跡「弓削島荘遺跡」をはじめとした歴史や、祭り・地域行事等の伝統文化が現在に継承されています。しかし、博物館施設等の歴史・文化を学習し、活動を行う拠点施設が存在していないことから、それらの活動が困難となっており、学習機会の創出が課題となっています。博物館施設等を整備することにより、町の歴史・文化に関する調査や研究、資料の収集・保存、展示といった基盤となる活動を行うとともに、町民の自発的な学習や活動の支援を行うための講座等の設置や、町内の学校教育と連携した学習プログラムの構築などにより、本町の歴史・文化を次世代へと継承できる人材を育成します。

KPI (重要業績評価指標)	地域住民を対象とした生涯学習支援(講座等の設置数)	
	令和3年度(基準)	令和7年度(目標)
	1回	3回
	町内学校を対象とした歴史・文化に関する学習支援(学校数)	
	令和3年度(基準)	令和7年度(目標)
	3校	8校
主な事業・取組	▶ 博物館設置の検討 ▶ 基盤活動(調査研究、資料の収集保存・展示公開)の実施 ▶ 地域住民を対象とした生涯学習支援 ▶ 町内学校を対象とした歴史・文化に関する学習支援 ▶ 歴史・文化の継承を目的とした人材の育成	

(2) 歴史・文化を通じた交流や史跡回遊等の文化財活用による地域活性化

上島町の豊かな歴史・文化は、地域の資源として地域づくりに活用していくことが望まれます。町内各地には、史跡や名勝、寺院・神社、昔の面影を遺す町並みなど、回遊によって楽しみながら学べる場所が多数存在します。博物館等の拠点施設を整備し、島や海を含めた空間を「しまじゅうまるごと博物館」と見立て、拠点を中心とした回遊プログラムを構築することにより、学習や観光に歴史・文化を活用します。また、地域住民から支援者を募集し、観光客を対象としたガイドや、町民ギャラリー等の企画を行うなど、歴史・文化を活用した観光振興を促し、交流・関係人口の獲得を目指します。

KPI (重要業績評価指標)	地域回遊プログラム構築	
	令和3年度(基準)	令和7年度(目標)
	0回	1回
	交流機会の創出	
	令和3年度(基準)	令和7年度(目標)
	0回	5回
主な事業・取組	▶ 「しまじゅうまるごと博物館」の実施 ▶ 歴史・文化ツアーの実施 ▶ ギャラリー展の開催 ▶ 歴史・文化活動に関する支援者の募集	

基本目標3 誰もが今ある豊かで幸福な暮らしを継続していけるまちづくり

1. 数値目標

● 転入超過数

基準値(令和3年度)-59 → 目標値(令和7年度)0

2. 基本的方向

- 少子高齢化や過疎化等による地域課題が加速する中、誰もが住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることができるようなムードのあるまちづくりを目指すとともに、町民一人ひとりの健康づくりへの意識向上と地域の実情に合わせた医療体制や介護サービスの整備を推進します。
- これまでの取組みの成果や課題を踏まえ、空き家・空き地情報バンクの利用・物件登録を促進することにより、移住希望者の受け皿を確保し、住まい不足解消に伴う転出者数の減少を図ります。
また、移住定住希望者へ情報提供を行い、空き家を利活用するほか、移住フェア等への参加による地域の魅力の発信等により移住者（U/I ターン）数の増加を図ります。
- 官民学が一体となり町内の教育環境の魅力化に取り組み、県立弓削高等学校においては、入学者数が20人未満の状況が3年続き、その後も増える見込みがない場合は募集停止となるため、定員である40人の入学者数確保を目指し、町内唯一の高校の存続を図ります。また、高等学校や高等専門学校において県外からの生徒・学生を受け入れ、多様な若年層が暮らせる環境を整え、子育て世代を含む幅広い世代のU/Iターンを促進します。
- 地域公共交通の利用者の利便性向上のために新たな仕組みを構築し、町民の日常生活を支える交通ネットワークの維持・拡充を図り、暮らしやすい生活環境の実現を目指します。
- 町民の生活に欠かせない水を供給するとともに生活排水をきれいにして河川や海に戻すため、上下水道に係る施設・給排水設備を適切に維持・管理します。

3. 具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）

（1）健康づくりの推進

一人ひとりが主体的に健康づくりに取り組めるよう、情報提供や支援体制を整えます。また、一人ひとりの健康づくりを基本に、地域や関係機関等と連携し、介護予防につなげる健康づくりを推進します。

（2）暮らしやすい生活環境の整備

居住する高齢者に合った適切な住環境の整備を行うとともに、地域の実情を踏まえた在宅サービス及び施設サービスの提供体制を整え、在宅医療との連携へ繋げます。

また、誰もが安心して望む場所で療養生活を送ることができる地域づくりを目指します。そのために特別養護老人ホーム海光園をはじめ、町内の施設を活用し、連携していきます。人生の最期までの時間が満足のある穏やかで幸せな時間になるよう支援します。

医療体制の確保について、現在の医科・歯科診療所施設の適切な維持管理を実施するとともに、医師・看護師の確保に努めます。

KPI (重要業績評価指標)	介護予防事業利用者数（延べ）	
	令和３年度(基準)	令和７年度（目標）
	445 人	580 人
主な事業・取組	▶ 健康増進事業 ▶ 健康ポイント制度の推進 ▶ 高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施 ▶ 地域包括ケアシステム推進 ▶ 介護保険制度の適切な運営・利用 ▶ 在宅医療・介護連携推進事業	

（３）本町への移住・定住の促進

移住相談窓口の設置により、移住希望者に対して、地域の生活に関する情報の提供、助言及び地域の紹介や案内に係る支援を移住者の目線で行い、移住者数の増加を図ります。

移住・空き家ポータルサイトを運営し、上島町の暮らし、住まい等の情報を移住定住希望者へ向けてSNS等を活用し、積極的に情報発信を行います。

島外に進学していく子どもたちに、奨学金制度の活用を促進し、将来のＵターン者数の増加を図ります。

KPI (重要業績評価指標)	町外からの移住者数	
	令和３年度(基準)	令和７年度（目標）
	60 人	70 人
主な事業・取組	▶ 空き家・空き地情報バンク制度や空き家活用事業 ▶ 移住お試し住宅事業 ▶ 移住コーディネーター設置事業 ▶ 移住体験ツアー事業 ▶ 移住パンフレット制作事業 ▶ 空き家・空き地情報バンク利用促進セミナーの開催 ▶ 移住定住促進説明会・フェア実施事業 ▶ ゆめしま奨学金制度事業	

（４）県立弓削高等学校存続への活動の推進

積極的に弓削高校の生徒数を確保するため、振興対策補助金を交付し、学校教育の振興を図るとともに、給食の提供や公営塾の運営、授業カリキュラム改革を行い、地域と連携して同校の魅力化を推進し、町内だけでなく全国から幅広く生徒の受け入れを図ります。

また、弓削高校魅力化プロジェクトのコンセプトである「ワクワク・チャレンジ・創造のゆめしま海道で夢つなぐ人になる」を基に弓削高校と連携し、全国に情報発信を行います。

KPI (重要業績評価指標)	県立弓削高等学校への入学者数	
	令和3年度(基準)	令和7年度(目標)
	24人	40人
主な事業・取組	▶ 振興対策補助金交付事業 通学費補助 / 入学祝金 / 研修部活動参加補助 地域みらい留学参加補助 / 県外留学生下宿補助 ▶ 給食提供 ▶ 公営塾運営 ▶ 弓削高校魅力化アドバイザー事業 ▶ 地域・教育魅力化コーディネーター設置事業 ▶ 学生宿舎設置運営事業 ▶ 移住・高校全国募集共同イベント実施事業	

(5) 地域公共交通の利便性向上

町有バス弓削支線で導入している、デマンド型交通の運行形態の見直し、改善及び拡充を実施し、利用者の多様なニーズに対応できる仕組みを構築することにより地域公共交通の利便性向上を図ります。

KPI (重要業績評価指標)	デマンド型交通の予約件数	
	令和3年度(基準)	令和7年度(目標)
	26件	300件
主な事業・取組	▶ デマンド型交通の運行形態の見直し、改善及び拡充	

(6) 多様な地域活動の促進

まちづくりや地域課題の解決に向けて町民や自治会等の地域組織、各種団体等が主体的に実施する地域コミュニティ活動を支援するとともに、ボランティアやNPO、自治会、企業等の多様な主体同士の協働を促進し、住みよい地域社会の実現を目指します。

そのうえで、今後は行政と各主体をつなぐ中間支援組織となりうる人材または団体の育成を検討します。

KPI (重要業績評価指標)	ふるさと事業費補助金採択件数	
	令和3年度(基準)	令和7年度(目標)
	13件	20件
主な事業・取組	▶ ふるさと事業費補助金 ▶ 景観づくり活動助成	

(7) 地域密着型のケーブルテレビの運営

①地域貢献への取り組み

町の公共放送機関として、機器の更新を計画的に実施しつつ、以下のような取り組みにより、生活・教育・文化などの向上に貢献します。

- ・町及び公共団体等の広報（お知らせ）や議会を放送することで、町の情報を提供します。
- ・地元の伝統的な祭りや文化祭で披露される伝統芸能を撮影・放送することで伝統文化を継承していきます。
- ・地元団体と協力し、各種イベントを撮影・放送することで地域の活性化を図ります。
- ・観光向けの番組を制作し、県内外へ配信することで、町を盛り上げます。
- ・教育（学校）関連のイベント等を撮影・放送することで、子どもたちの成長を記録する役割を担います。
- ・災害や緊急時の通報及び連絡について、緊急テレップや自主放送を使って正確な情報を届けます。

KPI (重要業績評価指標)	CATV 加入普及率	
	令和3年度(基準)	令和7年度(目標)
	85%	90%
主な事業・取組	▶ 町内イベント・行事等の取材や番組制作活動 ▶ 町の広報(お知らせ)や議会放送等の公共の情報発信 ▶ NHK・愛媛県下のCATV局・ぐるぐる中四国への番組提供による町の情報発信 ▶ ふるさとCM大賞向けのCMを制作し、町のPR活動を実施	

②町内外への魅力発信

本町の魅力を知ってもらうため、YouTubeチャンネルを活用し、サイクリング等の観光PR動画を配信します。

また、YouTubeチャンネルをオンデマンドとして活用し、CATV局で制作した番組をいつでもどこでも、スマートフォンやパソコンを使って見るようにします。

KPI (重要業績評価指標)	YouTube チャンネル登録者数	
	令和3年度(基準)	令和7年度(目標)
	200人	1,000人
主な事業・取組	▶ YouTubeチャンネル「瀬戸内海に浮かぶ島の町「上島町」」 ▶ 町のイベントやサイクリング等の観光PR動画、移住PR動画の配信	

基本目標4 誰もが希望をもって働き、活気あふれるまちづくり

1. 数値目標

- 新たに仕事を増やす企業等の数(新規創業を含む)
基準値(平成27年度～令和2年度累計)22社
→目標値(令和4年度～令和7年度累計)15社

2. 基本的方向

- ゆめしま海道の全線開通により、地域内交流や地域外の人々との交流機会が増えることから、新たな店舗の出店や新規創業等を目指す意欲のあるチャレンジを応援し、仕事(なりわい)を通して町内外の交流の機会を促進します。
- 造船業を始めとした地場産業や町内小売店の事業継続を支援し、新たなビジネスチャンスの獲得や事業拡大等についても、積極的なチャレンジができる環境を整えます。
- 進学や就職で町外に出た子どもたちが、将来は本町に戻り暮らしていきたいと考えてもらえるよう、生活するための前提となる住環境・仕事環境(仕事の選択肢、働く場所)を整えます。

3. 具体的な施策と重要業績評価指標(KPI)

(1) 新規創業の促進

町民やUターン等の移住者による新規創業等を支援するため、上島町商工会と連携し、創業支援の相談体制を整えます。

また、現在は居住用としてのみ利用登録可能な空き家・空き地バンク制度について、制度の拡大や新たな制度を構築し、町内での新規創業や既存事業の拡大など、空き家を有用な資源として事業用にも活用できるよう、取り組みを進めます。

(2) 地元雇用の促進

地元事業者やサテライトオフィスによる地元雇用を促進するため、上島町商工会や地元事業者と連携し、町内事業者の求人情報を町民や移住希望者等に周知・提示する仕組みや、雇用を求める人と働く場所を探している人とを結びつけるための体制を整えるとともに、新たな企業誘致に取り組みます。

(3) 事業の継続支援

町内の中小企業者や個人事業主が安心して事業を継続できるよう、上島町商工会や金融機関を始めとした関係団体と連携し、相談体制や融資制度を整えます。

また、今まで続いてきた町内の伝統・歴史ある事業が途絶えないよう、廃業の恐れのある事業を第3者などに引き継ぎを行えるような仕組みを検討します。併せて、町内で育った子供たちの、「上島町に帰ってきたい」思いを実現するため、ゆめしま奨学金制度の利用促進や事業承継制度の構築を図ります。

一方で、新型コロナウイルス感染症による事業の落ち込み等で経営危機を迎えている事業者に対しては、引き続き適切に支援するとともに、ウィズコロナに向けて事業の継続が図れるよう支援制度を実施します。

(4) 造船業の振興

上島町の基幹産業の一つである造船業は、本町の経済を支えています。しかし、技術者の確保・育成や離島という地理的制約による課題等が指摘されています。

こうした情勢を踏まえ、全国の海事関連産業が立地する自治体と連携し、国や県に支援を求めるとともに、町としても引き続き事業継続等の支援を行い、町の発展と活性化を図ります。

KPI (重要業績評価指標)	新規出店者店舗改修補助金	
	令和3年度(基準)	令和7年度(目標)
	1件	累計6件
	上島町中小企業振興資金融資制度利用事業者数	
	令和3年度(基準)	令和7年度(目標)
	0社	10社
主な事業・取組	▶ 新規出店者店舗改修補助金 ▶ 上島町新事業応援助成金 ▶ 上島町企業誘致促進条例による各種奨励措置 ▶ 上島町中小企業振興資金融資制度 ▶ ゆめしま奨学金制度事業(再掲)	

基本目標5 人が活発に交流し、ふれあいのあるまちづくり

1. 数値目標

- 観光体験プログラム参加者数
基準値(令和3年度)2,000人 → 目標値(令和7年度)3,000人

2. 基本的方向

- 通過型観光ではなく滞在型観光をこれまで以上に促進し、町内により長く滞在してもらうことで観光客と町内の人々との交流を促し、リピーターや上島町のファンを増やしていくことで、観光から関係人口、移住へとつながる流れをつくります。
- 町道と林道を一体的に整備することにより、観光拠点や景観スポットへのアクセス向上及び林業の振興、大規模災害に備えた代替ルートの確保を図り、離島間を結ぶ道路ネットワークの構築に取り組むことで、関係・交流人口の拡大及び滞在時間の長期化、観光消費額の増加を図ります。
- 架橋後の今こそ、人と人とのつながりの大切さを再認識するとともに、共に支え合う地域社会を形成し、人生のライフステージに合わせた無理のないつながりを大切にする地域になることを目指します。
- 子育て世代や出生数が減少傾向にある本町の現状を踏まえ、地域を越えた子育て世代の交流や出生前から切れ目のない子育て支援を図ります。

3. 具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）

(1) 滞在型観光の促進

町内での体験プログラムの掘り起こしを行い、旅の目的に沿ったメニューを充実させ、上島町を訪れるサイクリストを始めとした観光客に効果的に情報発信することで、体験プログラム参加者の増加を図ります。

また、昨今のアウトドアの流行にも対応できるよう、町内キャンプ場の整備やエコツーリズムの推進等により、観光客の受入体制の充実に努めます。

(2) 安心・安全に観光やサイクリングができる道路や施設の整備

町内を周遊する町道及び林道の整備並びに路面標示や案内標識を統一することにより、サイクリストや観光客の安全で快適な町内周遊を促進するとともに、地元住民と観光客等が交流できる道の駅などの拠点を整備し、町内での滞在時間の長期化を図り、観光消費を促進します。

町道及び林道の一体的な整備の相乗効果により、町民の利便性及び安全性が向上し、その結果、本町の定住人口の増加といった道整備事業の政策効果を高めます。

(3) 上島町と町外とのつながりの構築

岩城橋の完成及び「ゆめしま海道」の全線開通により、これまで以上に本町の注目度が上がっている今こそ、「上島町を応援したい」と思っている町外の人々及び民間企業等が、上島町とのつながりを築くことができる仕組みを設け、関係・交流人口の創出・拡大を目指します。

KPI (重要業績評価指標)	観光入込客数	
	令和3年度(基準)	令和7年度(目標)
	93,790 人	225,000 人
	町内宿泊客数	
	令和3年度(基準)	令和7年度(目標)
	12,729 人	23,000 人
主な事業・取組	▶ サイクルフリー事業 ▶ 広域連携事業(しまなみジャパン等) ▶ 観光情報発信事業 ▶ エコツーリズム推進事業 ▶ 道の駅整備事業 ▶ ふるさと納税活用事業	

(4) 共に支え合う地域づくり

お互いに多様な価値観や考え方を認め、尊重し合い、自分らしく生き生きと過ごすことができる地域社会を形成していきます。

地域住民同士の助け合い・支え合いが促進できるよう、住民が住みよいまちづくりに取り組むよう促します。

(5) 地域で子どもを産み育てられる環境づくり

将来の地域を担う若い家族が、島の中で子どもを育てるうえでの不安材料を減らし、地域で子どもたちを見守るような社会環境をつくり出していきます。

(6) 子ども・子育て世代の交流

子育て世代の減少、また出生数が減少する中、青壮年期の移住者が増えており、健やかに安心して本町で子育てできるよう、情報提供や相談窓口等を充実させます。また、地域を越えて気軽に子育て世代が集まりやすい場所を提供します。

KPI (重要業績評価指標)	出生数	
	令和３年度(基準)	令和７年度(目標)
	９人	15人
	保育所の利用率	
	令和３年度(基準)	令和７年度(目標)
	81%	86%
主な事業・取組	▶ 妊婦及び不妊治療の通院時交通費の助成 ▶ チャイルドシート購入助成 ▶ 15歳までのインフルエンザ予防接種助成 ▶ 18歳までの医療費助成 ▶ 保育料等減免による子育て世帯の負担軽減 ▶ 男女共同参画の視点についての企業等への啓発、育児休業取得の促進 ▶ 上島町保健福祉計画や上島町障がい者計画・障がい福祉計画・障がい児童福祉計画等の推進 ▶ 地域子育て支援拠点事業の促進、子育て環境の向上 ▶ パパママ教室や育児教室等の開催 ▶ 生活支援体制整備事業 ▶ 認知症サポーター事業 ▶ 地域見守りネットワーク事業 ▶ 徘徊 SOS ネットワーク事業 ▶ 独居高齢者見守り事業	

参 考

1. 上島町総合戦略等推進会議委員名簿

河端光法（上島町副町長）※1、前田省二（上島町議会議長）※2
新谷満（上島町区長連絡協議会会長）、宮川阪光（上島町社会福祉協議会会長）
松浦哲（上島町商工会会長）、浪切睦夫（愛媛県漁業協同組合弓削支所支所長）
小川俊治（上島町観光協会会長）、上村建太（上島町スポーツ協会会長）
東喜美子（上島町文化協会会長）
中川理香（特定非営利活動法人上島ポップコーンの会代表理事）
正岡利博（愛媛県立弓削高等学校教頭）、松本啓文（株式会社愛媛銀行弓削支店支店長）
清水啓介（南海放送株式会社常勤監査役）

※1：会長 ※2：副会長

2. コアチーム名簿

藤巻光加（まるふ農園）、福田広寿（社協）、宮畑周平（瀬戸内編集デザイン研究所）
古江克己（弓削漁協青年部）、山之内彩美（book café okappa）、上村建太（商工会青年部）
村上大記（ネクストエイジインターナショナル）、濱口真弥（愛媛銀行）
亀井英幸（イワキテック）、原田広志（しましま農園）、西本桂将（商工観光課）
村上徹（建設課）、佐伯和恵（魚島住民福祉課）

※所属は令和元年度当時

3. コアチームの活動

開催日	内 容
令和元年 7 月 31 日	・ 総合戦略とは？ ・ コア会議の進め方等を協議
令和元年 8 月 5 日	・ 上島町が持つ“強み”と“弱み”を出し合う
令和元年 8 月 21 日	・ “人口が減ると何が困るのか”について意見を出し合う
令和元年 9 月 6 日	・ “上島町に暮らして幸せなこと、豊かなこと”をブレインストーミング方式により意見を出し合う
令和元年 9 月 17 日	・ 第 4 回を基にまとめた“上島町に暮らして幸せなこと、豊かなこと”を復習し、他の視点や加える要素がないか確認
令和元年 10 月 28 日	・ “上島町に暮らして幸せなこと、豊かなこと”について、今後脅かされる要因がないか、課題、もっとこうだったら良いのに、などの意見を出し合う。
令和元年 11 月 27 日	・ 第 6 回に引き続き、課題等を出し合う。
令和元年 12 月 18 日	・ 第 7 回に引き続き、課題等を出し合う。 ・ 今後の進め方やワーキンググループの実施方法等を協議
令和 2 年 1 月 22 日	・ コアチームメンバーのワーキンググループ分野の振り分け ・ ワーキンググループに参加してほしい町民の推薦

4. ワーキンググループ名簿

I. 海と自然

宮畑周平（瀬戸内編集デザイン研究所）、西本桂将（教育委員会）
馬木徳広（瀬戸内備長炭生産組合）、杉山奨（弓削漁協青年部）
斎藤サミュエル彰士（島旅ヨット）、古川優哉（まるふ農園）、浦安元太（浦安水産）
塩見尚徳（魚島漁協）、天野素晴（農林水産課）

II. 歴史・文化

有馬啓介（教育委員会）、北濱大輔（弓削漁協）、平石美智子、山本こころ
工藤美絵（古民家ゲストハウス汐見の家）、佐伯和恵（魚島町民生活課）

III. 暮らし

山之内彩美（book café okappa）、中山なぎ（島おこし協力隊）、浪切浩司（廣昭）
中坂富雄（ナカサカ電機）、寺下貴義（社協）、来住美里（ゆめしま未来塾）
大西幸江（町議会議員）、森本美智子（総務課）

IV. なりわい

原田広志（しましま農園）、小林宣貴（観光戦略課）、竹林健二（ふくふくの会）
加藤康志（ゲストハウスとこのま）、宮畑真紀（Kitchen 313 Kamiyuge）
マシュー・ピーターセン（ゆげ海の駅舎「ふらっと」）、中浦一美（なかうら）
古本蒼志（いわぎ物産センター）

V. 人と人との関係

上村建太（商工会青年部）、古江克己（弓削漁協青年部）、白石千夏（住民課）
山上翼（カットハウスヤマウエ）、恵美孝彦（社協）、西村すみれ（生名スポレク）
平田千都（海光園）

5. ワーキンググループの活動

開催日	内 容
令和4年3月29日	・ワーキンググループ発足 ・キックオフ全体会
令和4年4月～7月	・各ワーキンググループで議論 ①上島流の豊かさ・幸せとは何か？ ②今はない（足りない）、上島流の豊かさ、幸せに必要なものの・こと・場所は？ ③魅力的な上島を実現する、もしくは、良くしたり、未来に繋いでいくための課題は何？ ④ビジョン・コンセプトのまとめ
令和4年7月15日	・全体報告会